明治四十三年六月八日 第四百廿四號 (水曜日) 明治四十一年十二月廿三日第三種郵便物認可 (一)
(日刊) 月曜及祭日の翌日休刊

京城新報

明治四十三年 紀元二千五百七十年
本紙 一枚金二錢▲一ケ月前金壱圓▲三ケ月前金壱圓▲六ケ月前金弐圓▲郵税一ケ月十三錢
定價 月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金 一字十七字詰一行一回金壱錢▲五十字詰一行金七十五錢▲五號活字十七字詰一行一回金五錢▲雜報欄特別廣告五號活字
發行兼編輯人 高木久馬
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六二三)
發行所 京城新報社

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

雜錄

牧師へ内外應酬

一記者

去月或牧師の京城に耶蘇教信者の心を感はす所開外運あり、若し悔めんば猶禍を喰はすべしとやうの慣慨師を戒せたことがある、が其後何の沙汰にも接せぬ、外道が閉息したのであらうか聞きたいものである。

序に聞きたいのは、京城に在る吾牧師が韓人に傳道する必要乃至責任を有せぬのであらうか、先つ遡きより遇きに及はすべく企劃されたのであらうか、曾て或牧師の手に成りし「宣教師が統監政治の邪魔ものだといふは嘘である」との宣敷師鮮雜文を何かの雜誌で見たことがあるが、京城の牧師の内に、道義の消息に通じ如新宮明を爲し得らるゝ人があることは吾輩の大に心强く感ずる處である、と同時に宣教師が信徒たる韓人に對して如何の教訓を與へ、爲めに信徒が如何の思想を有するに至つたかを實際に知れる牧師が有るかを聞きたい何の彼のといふよりも能く韓語の話せる牧師が有るかを聞きたい、尤も理屈を言へば牧師が韓語を話す必要は無いとも斷られ得る、併し吾輩は理屈を離かんと欲するので無い、只事實を問はんとする。

附一つ參考の爲めに聞いて置きたい、渡邊高等法院長は熱心なる信者で、彼の劇務に缺罪する傍ら道の爲めに盡すこと頗る厚しと聞く、何にそれの信徒の會合には時折りならず說教もせられる誠に結構なることながら渡邊氏の說教は氏が高等法院長たることが太だ權威を加ふるのは或は狂み難き事相ではあるまいか、所謂權なるもの〳〵權威來讓せし朴內部大臣に對し直訴を企てたる事ありしも警官に押へられて其の目的を果さずしし警察及び水道事務所にて二一聽給水業者及び人夫の重なる者に對し種々訓戒を與へ且つ來る十日同給水請負者の競爭入札を執行を執行するを以て請負者決定の上にて夫々最良の方法を採るべく諭示したるに爾來彼等は連日密議を凝し居たるが昨日水道事務所に同業者連署の請願書を提出し給水請負者は普通人に請負はしめず面長又は其他の公職者に請負はし呉れよとの趣旨にて其理由とする所は非常なる苦慮なから取扱を受け万事に一般の難澁なからざるが故に一般人の信用する公職を有する者に請負はしめられたしと云ふにあり

▲水道 當地水道は成以來一般人の水道に對する思惑は非常に良好にして何れ一日も早く通水さるべきを希望し居り給水申込者隨て又非常に多く現在の模樣にては日本人側よりも却て韓人側に多く殊に奇異なる は自家引込みの私用權布設申込の如き殆んど韓人を以て讓たされ今日までの申込み割合を比較すれば日本人側三分强にして韓人側七分强の有樣にあり

▲農學校開校式 横浦農場平壤出張所にては今回當地農學校を設立し昨日午前十一時より其開校式を行ひたるが教官部よりは俄欠官臨場せられたるが教官は一兩日間滯在の上當地各學校を始め一般の學務を視察する由なり

▲降雨と降雹 本年當地方は非常の旱魃にて未だ雨穀の植付も出來ざる有樣なれば農民は何れも饑饉を覺悟し居りしが去る三十一日夕刻より降雨あり引續き翌六月一日に至るも未だ晴天を見ざる程なれば是れにて農家一般も大に愁眉を開きたるが昨日來は頗る强雨となり殊に本日午前七時頃より近來稀なる雷雨となり午前九時頃には大粒の降雹ありたり(五日)

日本船乃傳

第百卅二席 邑井一講演

津田近江之守 (卅七)

委細承知と四人掛り、是れから斬結び始めると成程半太夫の働き眼を驚かすばかり、四人が斬立てられ、拾遺けば討死も出來やうと思ふ所に太刀音が烈しいから是れを聞附けて大石内藏之助が寺阪吉右衛門を連れて來ると雨人掛りで四人の方が受太刀になつて居るから、大石が又々合詞を以て神寄せると又々三人一組は倉橋傳助間新六村松三太夫是から七人掛りとなる、半太夫は迚も亡き身と思ふから大勢程が望みなりとあつてロよりは黑煙りを吐き覺ねた次けの脇を現はして、活人劍殺人刀の奥の手を以て必死に暴れ廻るに依つて七人の方がまだ是れで受太刀だ、内藏之助が扱ても館人があればあるものか、此敵一人の爲に斯く人數を掛くるといふは如何にも殘念至極、併し今朝卑怯未練を言ふ所にあらず、向ふは大勢此方は數なき四十七名人數を增すも恥辱ではなからうと思ひ故又々合詞を以て呼はると是れへ駆着け來たつた三人一組は神崎與五郎中村勘助矢頭衛門七是れで十人掛り、漸く是れで五分になつた、十人の方は危い所はないがまだ半太夫を討つといふ所にはいかぬ其上半太夫は手疵は一個所もない、盛んに烈しく斬合つて居るから、大石が愈々呆れた、一人の敵に十人此處で引取られて仕舞ふと、何うも覺ひの爲に夜が最う深更所ではない、明方に及び若し上野介殿を討ち奉るに至らば、時は可也足を見ろ」と其奴を片手でブラ下げて庭の方をノッ〳〵歩行いて居るとチャン〳〵といふ烈しい太刀音が聞ゆるから、何んであらうと森右衛門がブラ下げたなりに竹林が駆けて來て 唯「大石氏、內「唯七か和久半太夫に出會ひ此敵一人の爲に十人を取られて賊に逃遁致す」といへば「太夫で御ざるか、顧ふてもない好き敵」

百石のれ旗本でれ目見ゑ以上も以下もないもんだ 森「全く存じません」唯「然らば其處に案內しろ 森「腰が拔けまして動けません 唯「夫れぢやア乃公が手前をブラ下げてやるから、此刀の鞘に捕まつて來い 森「イエ何うも手が慄へて不可ません 唯「意よ〳〵柔弱な奴だサア足を見ろ」と其奴を片手でブラ下げて庭の方をノッ〳〵歩行いて居るとチャン〳〵といふ烈しい太刀音が聞ゆるから、何んであらうと森右衛門がブラ下げたなりに竹林が駆けて來て 唯「大石氏、內「唯七か和久半太夫に出會ひ此敵一人の爲に十人を取られて賊に逃遁致す」といへば「太夫で御ざるか、顧ふてもない好き敵」

太夫 半「ヤイ多勢で勝負の附かざるに汝一人にて我れに敵對なさといふは命を商ふ市商人か、但しは慰かの發狂人か二の刀合せや命は取る、一刀兩斷覺悟して是れへ來れ」竹林から〳〵と打笑い 唯「半太夫其言葉さへ刀を拔け言句の分らぬ奥州奴愚圖々々言はず勝負に及べ」と唯七は伊豆守兼定の銘刀を以て半太夫と一人打ちの勝負に及んだ、刀を以て鬼神の如き和久家傑を竹林手傷も負はず斬つて捨てるといふ所より上野介れ殿所が相分といふ……

人の男をブラ〳〵樣變を取つてブラ下げて居る、是れは何んだといふと竹林が臺所の方をブラ附いて居ると一人竈の陰に隱れて居る者があるから夫れを引捕へて唯「手前は何んだ」○「手前は木下森右衛門といふれ臺所掛り、唯「其方は御隱居上野介樣の御隱所を知つて居るだらう 森「イエ更に存じません、私はれ目見ゑ以下の身分の輕い者でございますから其隱所は更に辯へません 唯「是れ〳〵大層なこといふな高が二千四百石のれ旗本でれ目見ゑ以上も以下もないもんだ 森「全く存じません 唯「然らば其處に案內しろ 森「座敷は二箇所ございます 唯「夫ならば座敷に離れ座敷があるだらう 森「離れたので暫く氣合ひを休めて居る、竹林は伊豆守兼定の銘刀を中段に取つて進んで來る大石が 大「アイヤ唯七一人では危ふし〳〵」といへば竹林莞爾と笑つて 唯「御城代危いと は敵のことでござる」とヅカ〳〵前に進んで往く半

人の男をブラ〳〵樣變を取つてブラ下げて居る、是れは何んだといふと竹林が臺所の方をブラ附いて居ると一人竈の陰に隱れて居る者があるから夫れを引捕へて唯「手前は何んだ」○「手前は木下森右衛門といふれ臺所掛り、唯「其方は御隱居上野介樣の御隱所を知つて居るだらう 森「イエ更に存じません、私はれ目見ゑ以下の身分の輕い者でございますから其隱所は更に辯へません 唯「是れ〳〵大層なこといふな高が二千四百石のれ旗本でれ目見ゑ以上も以下もないもんだ 森「全く存じません 唯「然らば其處に案內しろ 森「座敷は二箇所ございます 唯「夫ならば座敷に離れ座敷があるだらう 森「離れたので暫く氣合ひを休めて居る、竹林は伊豆守兼定の銘刀を中段に取つて進んで來る大石が 大「アイヤ唯七一人では危ふし〳〵」といへば竹林莞爾と笑つて 唯「御城代危いと は敵のことでござる」とヅカ〳〵前に進んで往く半

諸官衙御用達

既製洋服卸小賣

京城本町三丁目 田中友吉商店 電話九九三番 發電報(タ)

大坂野村德七代理店

諸公債、諸株券、現物賣買、迅速確實に御取扱可申候兼業

韓國代理店 京城本町二丁目 電話百四十五番 日韓書房

小學各科教授要領

▼小學教師諸君のポッケット用 袖珍美本三冊全

改訂國定教科書 修身科教授要領 袖珍美本 教授科全六冊 各學年一冊宛

改訂國定教科書 語科教授要領 袖珍美本 教授科全二冊 各學年一冊宛

改訂國定教科書 算術科教授要領 袖珍美本 教授科全二冊 各學年一冊宛

改訂國定教科書 地理科教授要領 袖珍美本 教授科全一冊 五六年一冊宛

改訂國定教科書 歷史科教授要領 袖珍美本 教授科全一冊 五六年一冊宛

改訂國定教科書 理科教授要領 袖珍美本 教授科全二冊 五六年一冊宛

▼小學教授の好參考書 定價各十錢 郵税各二錢

振替口座 東京一五三

東京 神田 錦町 同文館

前號本社賣切れ六月號出來日本購入あれ

實業界

六月號

▲世界の大勢…田尻子爵
▲有望の事業…高松博士
▲明治富豪界の分野…高島教授
▲高商入學案…澤田教授
▲華族と富豪の緣組…一冊一圓
▲歐米商店賣出し報…新聞社
▲佛教より得る處世訓…藤村翁
▲斯る人には幾らでも金を出す…矢野恒太
▲店員の貯金…日比谷
▲各人の品性…日比谷
▲大倉喜八郎觀…並澤々々
▲日比谷平左衛門
▲田尻子爵の名著を都下に贈るの心…本誌
▲商店に於ける下足金庫の利害…濱田四郎
▲從來に倣ひ…
▲不動產抵當を恥とするの觀見…志村源太郎
▲給料の最後…
▲月末…
▲三圓の餘…
▲佐久間大尉の最後…藤井中將
▲今日の銀行會社員に如斯注文…岩原謙三

發行部數激增切賣れあ入購內

婦女界

▲壯烈なる春日局の傳 一冊
▲竹田宮妃昌子殿下の御平生
▲女子に貴族の內親王の門戶を開け…中川校長
▲佐久間大尉の最後…藤井中將
▲婦人は樣の下の力持たるべし…高島平三郎
▲至誠を欠く日本婦人の交際…新渡戸博士
▲尼になつた…
▲女子大學卒業迄の…
▲六月號 大附錄 三代將軍家光公より春日局に贈られる…
▲夏季の化粧は如何にすべきか…初子
▲夏季の衣服は如何にすべきか…米喜
▲女丈夫つる女の傳
▲六人の家業を再興し寡婦
▲中毒に對する手當法
▲女子職業として…
▲入梅期の衣服調度

東京電報

▲教育會と學制

帝國教育會學制調研究部にては今回の學制改革案を以て非なりとし現制度を維持すると同時に中學校を六年とし小學校を修業したるものに入學を得せしめ全体に於て一年の短縮を圖る事とし不日提案の起草をなし社會に發表すると同時に文部省に建議し併て輿論の喚起に力めべしと(七日)

▲勸業債券發行

勸業銀行に於ては目下債券發行に就き計畫しつゝあるが目下同行の餘力は一千萬圓以上に上れるを以て公債總額一千萬圓の債券を發行せんとする希望あるも經濟界の事情と大藏省の意見にて或は五百萬圓に止びし其の發行時期發行條件利率等は協議中なり(同上)

▲滿鐵株主總會

滿鐵會社にては來る十八日東京商業會議所に於て總會を開く事に決定し目下中村總裁以下鶴岡理事に右總會の提案協議中なるが鐵道收入と共に昨年來順調に向ひつゝある滿鐵唯一の大豆輸送も好成績を擧げつゝあり本年は必らず政府の持株にも配當を爲すべく期定し目下審議中なるが右配當率は六分以上に出つる事能はざるべしと(同上)

▲豫算編成方針

我が政府は明治四十四年度歲入歲出總豫算編成期切迫したるを以て財政計劃に就き神々調査審議中なるが其の方針は大体に於て四十三年度豫算編成方針を踏襲し非募債主義を維持し海軍充實案は明治四十五年度より實施する事と内定せりと確聞す(同上)

▲總務長官人選

統監府總務長官には地方長官中の少壯者より拔擢任用するとに決したりと傳ふ(同上)

▲漁夫銃殺の眞相

沿海州漁區に於て日本漁夫數國官憲の爲めに就殺せられたりとの事件は日本漁夫と土人と爭鬪し一名殺されたるを誤電したるものなり(同上)

▲渡邊宮相の招宴

渡邊宮相は御沙汰を奉じ今七日正午宮中顧問官錦鴻間祇候を芝離宮に招待し午餐會を催ふせり(同上)

北京電報

▲朝廷轉覆密謀

清國革命黨は一擧して滿州朝廷を轉覆する一大秘密謀中なりとの飛報北京政府に達したる爲め朝廷の震駭一方ならず各軍機大臣は今朝來軍機處に會し審議を凝し居れり(七日)

▲革命黨員入京

南清に於ける秘密結社員就中孫文逸仙の一味商人又は勞働者に扮し續々北京に入込む形跡あり皇宮の警戒益々嚴重なり(同上)

地方電報

▲暴徒電線切斷

北蒼坪と麗源間及北蒼坪と穩城間の電柱各一本を昨夜より今朝までに切斷され電線約十八間余を窃取されしが暴徒の所爲らしく其筋にて嚴探中なり(七日麗南發)

雜報

滿韓移民の方針

小村外務大臣は第二十六議會に於て北米南米其他には日本移民は最早其余地なきを以て今後は力めて我同胞を滿韓に集中せしむる方針なりと言明したるが其後政府に於ても其方法に付研究する所ありたる結果東洋拓殖會社に依りて差當り內地人に對し移住を奬勵しつゝある現狀なるが顧て滿洲方面に於ける日本人の移住に就ては未だ具体的奬勵策なるものなく隨つて目下の所鐵工事に從事する一部邦人の單獨者のみに限りあるを以て甚だ不振の狀態にあり尤も滿洲の地は氣候の關係上農業に適せず此の點に就ては當局者も苦心研究しつゝある所なるが土着地たる南滿鐵道沿線の多くは工業從事者にして商工業も亦比較的好成績を擧げつゝありと云へば今後政府は滿洲移住者を奬勵するに當り商工業を筆頭とし安奉線工事竣成の上該沿線地方に邦人を移住せしめ商工業の發展に資する方針なりと聞けり

重要電命又下る

寺內統監は現在居留邦人の分布狀勢及現在各官衙並に日韓人官庁配置の狀態其他警備機關に關する一切の設備を最も綿密精細に調査し遠かに報告すべく電命ありたりと傳ふ夫れかあらぬか統監府始め各官衙とも當該係の事務は非常の多忙を極め居れり

參與官會議の激論

別項の如く七日午前十一時より參與官會議の例會を開きたるが統監更迭後日尚は淺く隨つて施政の方針那邊に在るか窺知する能はず唯だ揣摩臆說を逞するのみにて殆んど統監政治開始以來の奇觀を極め居るが偶々昨紙所報の宮東新任中止の電命突如として墜下し來りしが爲めに日韓兩官衙の恐慌は實に名狀すべからざるものあり現に內部の如き徒らに重寶を擁して豫定計劃を進むる能はず又漸々開設し是より官地調査の端緒を開かんとせる牧の土地調査局の如き最も痛切なる影響を受けたるより俄に副總裁は躍起となり同會議に於て熱心其不可能の所以を叫び激論する處ありたり而して該電命は官僚昨今の神經を刺激したる事實に甚しく遺憾其度を失ふの觀あるが上命如何ともする能由なく結局餘儀なき次第として更に時期を待つ事となり散會せりと

●土地調査と地方民

土地調査局にては近日より其事業に着手することは既報の如くなるが調査の目的は主として民有地を調査測量して個人の所有權を確認し之を保護するにあることは今更めて言ふを要さざるも地方に於ける愚昧の人民は今回の土地調査を以て或は莫大なる費用を投じ却て個人の負擔を重からしめて民力の困憊を來すに過きずと爲し或は土地調査終了後に於て收獲高を人口に割當て殘餘の土地は政府に沒收するものと信じ甚しきは調査の結果富豪の所有土地は日本移民をして小作せしめ之が爲めに韓國の資產家は漸次衰頹を招ぐに至るべしと爲し此等の誤解よりして一般に疑懼するもの多しと云ふ

●地方稅の費途區別

本年度地方稅豫算額は七十七万圓を計上せるが今其費途を聞くに漢城府の如きは約四分の一を土木事業に充て又其他の各道に於ても交通路の開鑿急務なるを認め就れも此點に全力を傾注し居れり現に其顧約三十七萬圓を超へ居るが其他に在ては教育費の五萬五千圓同補助費の五萬八千圓勸業補助費の約五萬圓同奬勵費三萬圓及屠獸費衛生費掃除費等に若干を計上し以て豫定の計劃を遂行する筈なりと云ふ

●警察方面會議開催

第一第三二方面の警察部長會議は八日午前九時より內部に於て開催さるゝ筈なるが日程は會議に先ち松井警務局長は一場の訓示を與へ引續各部長の管內情況報告を畢り諮問會に移る筈にて開催は四日間に亘るべしと尙は幸北島田部長は江界楚山方面巡回中にて其席に加はらず因に第一方面とは忠淸兩道京畿江原にして第三は黃海平安兩道なり

●煙作改良と度支部

度支部は訓令第六十二號を以て煙草耕作改良指導の爲め技術員派遣に關し左の如く訓令を發したり

本部臨時財源調査局より煙草耕作改良する爲め其遺管轄內各地方へ隨時技術員を派遣すべし而して勸業奬勵に關し十分盡力すると同時に當該技術員の指導誘掖上更に苟くも厭避の情なき樣府尹郡守面長に對し戒飾せらるべし

●平壤水道と水夫

朴齊純氏平壤に赴きたるが同地水汲夫等は水道開通と共に自己の職業を失はん事を恐れ內部大臣に直訴せんと企て不穩の擧動あるを平壤警察署の探知ところとなり圖係者に召喚說諭の上中止せしめたりと

●船舶檢査特別取扱

船舶の第一回檢査は法令の命ずる處に依れば非常の時間と手數を要し船舶業者の迷惑至大なるを以て其筋にては施行の當初なるを斟酌し本年度に限り特別の方法にて便宜の標準及方法に依り出來得る限り簡易に施行するの方針也

●密漁船漸く退散す

韓國密漁船の西北海に於ける跋扈に對し東拓出張所より其筋に水雷艇の急航を電請するに至りしも關稅局所管巡邏船內部所屬警備船二隻の回航により設備若しくは戒飾により無數の密漁船も今や全く影を收むるに至りし由

●參與官の定例會議

昨七日統監府に於て參與官會議例會を開く出席者は小宮、侯、國分の參與官、

●社告

病統監曾禰子爵遂に卧病して寺內總監に親任せられ永く沈睡せし統監政治は茲に面目を一新し世上の景氣は將に活氣を帶びんとす、されば本社は兩統監更迭を紀念する爲め左の通り一大紀念號を發刊せんとす

統監更迭紀念號

▲紀念號發行日 來る六月廿五日

▲記事の內容 韓半島に關する名士の談論其他政治、經濟、人情、風俗、美文、短篇等最も趣味と實益に富める記事を網羅す

▲頁數と發行部數 約數十頁となし發行部數も平素に數倍し廣く江湖に配附せんとす

右の次第なれば當日の廣告は普通廣告に比し尤も廣告締切 六月二十日を限りとす

六月 日

京城 新報社

京城商業會議員の半數改選の競爭

京城商業會議員の半數改選に對して過日報の如し然るに昨七日に至り舊議員派は團体を組織して公然運動を開始したり其顏振れは中村再二、山口太兵衛、曾我勉、增田三穗、林田金次郎、大曲和一郎、中內桑治、近藤正廉、松浦源辰馬、石橋久太郎の三氏を加へて猛烈なる運動を爲しつゝあるに對し其反對側にては大橋清三郎、森久兵衛、小林藤右衛門、深見清治郎氏に酒造組合を根據とする西本榮之助氏を加へて盛に運動を始めたり猶此外に舊議員たりし菊地次官代理、松井次官代理、倉信司法廳長官、大屋蠟道管理局長、鈴木司稅局長、池田通信管理局長等なりと

●船舶技術官の會議

關稅局に於ては本年度より海事各務を開始したるに付き各地の狀況と實施上の便否又は之れに關係したる事務打合せの爲め各稅關の船舶技術官及關係者を召集し來る十五日頃より協議會を開催する筈なりと云ふ

●東拓定款改正認可

東拓會社總會の議決を經たる定款改正の件は既に夫れ〳〵認可申請中なるが目韓兩政府とも二十一日附を以て認可さるべき由

●大臣會議の休會 七日開會せらるべき大臣會議は部合により休會せり

●御用船仁川入港 御用船渤海丸は一昨六日仁川を出帆し大連に向へり

商會議員の競爭

京城商業會議員の半數改選に對して過日報の如し然るに昨七日に至り舊議員派は團体を組織して公然運動を開始したり其顏振れは中村再二、山口太兵衛、曾我勉、增田三穗、林田金次郎、大曲和一郎、中內桑治、近藤正廉、松浦源辰馬、石橋久太郎の三氏を加へて猛烈なる運動を爲しつゝあるに對し其反對側にては大橋清三郎、森久兵衛、小林藤右衛門、深見清治郎氏に酒造組合を根據とする西本榮之助氏を加へて盛に運動を始めたり猶此外に舊議員たりし

韓國穀物と布哇

(仁川會議所の取調)

仁川商業會議所は蠶に力武精米所より布哇に於ける穀物輸入狀況其他に關する調査を委囑せられたれば直にホノルル總領事上野尊一氏に其旨照會する處なりしに一昨日外務署の手を經て左の回答に接したり

一、布哇輸入の穀類は一箇年自本より八万石乃至十萬石にして其價格は八十万弗內外なり

一、輸入米は重に防長米にして中國產之れに次ぐ

一、布哇に於ては玄米の取引を爲さず精白の上市場に上せり

一、玄米英百斤に付米金一弗二十五仙白米は二弗にして神戸よりホノルへ迄での運賃は一噸に付五弗水揚費一噸四十仙雜費五十仙なりと

一、輸入米穀販賣上の習慣は一般現金取引にて極め簡單なり白米百斤卸仙にして四弗四十五仙で問小賣は四弗六十五仙內外なり精米料は百斤に付約十仙內外なり慣は モンゴリア號を以て輸入せし最近の相場とす

一、布哇に於ける韓人は七万人清人一万八千人韓人は五千人の在留者あり

仁川港解賃引下げ

仁川に於ける解賃は本船と機艇との間及機橋と稅關構內上屋との間遠き爲め他港に比して割高なりしが今回稅關埋立地に於ける新機橋並に上屋完成を機とし一般に之れを使用せしめ同時に貨物の檢査を右の上屋內にて行ふことゝ爲したる爲め出入貨物の積卸し及運搬上多大の便利を與へ且時間を節するとも尠からざるに依り同港解業者は協議の上一日より解賃の引下を爲したり

●仁川埠頭稅關設備

仁川阜頭稅關設備として既に上屋四棟卅五間奧行七間の煉瓦倉庫二棟を新築し工事中なるが遲くも八月中には竣工すべく尙は本廳舍並びに監視部貨物檢査場外廓等の諸工事は近日中受負入札に附せらるゝ筈にて右總工の企劃は本年內に於て完成の豫定なりと

●仁川居留民會開會

仁川第十六回居留民會を七日午後八時より開きたるが其の議事日程は如左

一、四十二年度會計檢査報告の件

二、四十三年度會計檢査委員の選擧

三、寄附金受領報告

四、四十三年度仁川民團歲入出追加豫算

五、協議事項としては仁川病院個人經營に關する件小學校役宅修繕に關する件花市町租稅洞新道路開鑿に關する件

●日韓瓦斯重役會議

日韓瓦斯電氣會社は電燈複線及馬山電燈新設に關し岡崎專務より上すべき筈の業務多端の爲め特に在京中の白石商會專務取締役の來韓を促がし同社樓上に於て六日重役會議を開けり其結果兩取締役は當地に於ける營業一班の現狀を視察し九日馬山へ向け出發の由

●最近各地米豆價格

最近の各地米豆價格度支部調査如左

	上玄米	上大豆
仁川	四、三〇〇	八、八〇〇
群山	三、三〇〇	七、八〇〇
江景	三、三〇〇	八、三〇〇
木浦	四、二〇〇	六、九〇〇
馬山	四、七〇〇	八、八〇〇
鎭南浦	五、五〇〇	七、三〇〇
密陽	九、七〇〇	六、五〇〇
海州	四、四〇〇	八、二〇〇
龍岩浦	三、五〇〇	六、五〇〇
鎭岩浦	四、三〇〇	八、二〇〇
平均	四、九〇〇	六、六〇〇
	四、三八〇	七、二〇〇

●農事視察團の報告

東拓會社が渡日せしめたる農事視察團は既に歸れも鄉里に歸省し其結果は早晚事實に現はるべきが同社にては此視察の効果を空しからしめず又將來經營上に就ても六日より鍬初めをなしたり一面擴張に伴ふ原動力の增加は既報の如く龍山瓦斯發生所の隣地に二百五十坪の地を卜し五月以來工事に着手中なるが該功の上は從來の東門內及漢江畔の在來發電所を廢せらるべし尙は同工事は土工落成の頃迄には無論竣成さるべき由なりと云ふ

●仁川港埠頭設備

仁川阜頭稅關設備として既に上屋四棟卅五間奧行七間の煉瓦倉庫二棟を新築し工事中なるが遲くも八月中には竣工すべく尙は本廳舍並びに監視部貨物檢査場外廓等の諸工事は近日中受負入札に附せらるゝ筈にて右總工の企劃は本年內に於て完成の豫定なりと

●日韓瓦斯拂込通知

日韓瓦斯電氣會社は電氣事業擴張の爲め二十萬圓を第一銀行より借入れ三十萬圓を一般株主より五圓宛拂込ましむる事となりたるが既に夫れ〳〵通知を發し本月中に拂込さしむる由

●漢陽公園引繼協議

過日落成したる漢陽公園は京城民團へ引繼ぐ事となり該工事費は約二千圓を要したる由にて幾分の報償を爲さるべからず故に民團にては七日午後七時より協議會を開き經緯せりと

●馬山電氣工事開期

日韓瓦斯會社より資金十万圓を賭し目下出願中の馬山電氣事業は本月中旬迄には許可さるべき豫想の由なるが許可と同時工事に着手さるべき筈なりと

●出版界の福音

目下當地日韓書房にて豫約發賣中なる「現行韓國法典」は發賣以來日浅きにも不拘申込非常の好況にて一千部の提供も今や殘部僅少となりし由右は度支部大臣官房の編纂にて從來に比なき完全のものなるに因んも又以て出版界の榮譽なるべし

●佐々木部長出發

土地調査用務の爲め日本に出張を命ぜられたる土地調査部長佐々木藤太郎氏は七日朝南大門發の列車にて東上の途に就きたりと

●島村判事の出發

京城控訴院より釜山裁判所に轉勤を命ぜられたる判事島村忠次郎氏は七日朝釜山に向け出發

●西川勝藏氏入京

輸出牛檢疫所長の同氏は六日入京山本旅館に投宿せり

●米國宣教師來京

米國宣教師エーミーアーザー氏は六日入京巴城館に投宿

●三宅事務官出張

農商工部三宅事務官は度量衡配付の爲十日咸地へ出張

●川上常良氏入京

大蹄財務監管局長の同氏は六日入京三日月旅館に投宿

●沼澤七郎氏入京

忠南觀察道書記官の同氏は六日入京山本旅館に投宿す

諸看板製作
油繪肖像畫●硝子金文字入
ペンキ塗工事大勉強請負
赤門通り　永樂町二丁目
堪野工舎

京城の裏面（一）

はしがき

引續き愛讀の榮を得たる「名妓洗髮」の稿は、今日を以て完結したり、三面子は之れに代るに讀物として百鬼横行せる京城の裏面を各方面に渉りて觀察描寫せんとす、讀者希くば此れを以て讀者の好奇心を挑發する投機的冗文字とのみ見らるゝことなく、少くとも京城に於ける一種卑近なる處世訓として範を文字外に索められんことを、と少々辛い手前味噌を打ち撒けること爾り。

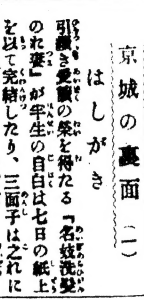
濡手で粟慾脱裏（一）

五日の本紙に「三人組の恐喝取財」と題したる記事（叡照）内容は所謂告訴者側の言分に、被告訴者側にも又言分あり、此の双互の言分を綜合すれば一部京城の裏面を窺ふに足るべし、被告訴者側即ち**川合**、**楠本**、**北島**等の言分を記さんに同人等外一人が打ち伴れて廿二日午前二時頃花園町の山崎喜一方を訪れ激越なる言語を放ちたるも、又川合が同人より十二圓七十八錢（六月十日拵約束手形）を受取りたるも、北島が同人より二十圓を受取りたるも川合楠本等が二百圓の出金を申込みたるも悉く事實なるも其の**事情**に至りては大に**異**るものあるのみならず本件の立役者たる津城大八を川合楠本の兩人が山崎に引き合はせたりと云ふに至りては全然相違ありと云ふ然らば如何にして津城が山崎と相識となりしかを有りのまゝに記さんに**津城**が人も知る西小門外刑事殺しの嫌疑者として外二人と共に十箇月余を牢舍に送り幸に無罪の宣告を受けて放免せられたるは昨年十二月二十一日なり、き超ゐて四十三年二月頃同人が大連在住中懇親を結び居たる某と南大門外にて邂逅したるに對し先般來受けたる災難及び拘留中悲慘なる一家の出來事（妻女の病氣）等を物語りし、某は大に同情を表し常に自分が出入りする川合貞助が俠氣に富むより此れに紹介したるに津城は大に**警察の無能野蠻**を嗚らし拘留中受けたる苦痛を列べ口を極めて其の不法を罵りたる末此れを**演劇**仕組みて是非を輿論に問はん考へなり、腕を扼して憤慨せしを聞きたる**川合**も大に**同情**し一臂の力を假さんことを言明したるのみか某氏に托して**筋書**せしめたり津城は此れを携へ壽座を訪きて上場すべく契約し**壽座**より南部署に願出で興行の許可を得たるに開場の前夜に至りて突然其の**指令を取り消**されたる事は當時の各新聞紙の報道したる所なれば讀者の記憶に新なる事實なり此の興行許可命令の取消に遭ひたる津城は川合に對し同類者として俱に獄舍の苦を同ふしたる三浦周吉が**廣梁灣鹽田工事**に關係し得意の境遇に居るを說き進んで同地の有望なるを極言し或る種の條件を提出したり（續）

酌婦として子を育つ

▽花二三亭まつ枝が事

女郎酌婦と雖ども女である以上は兒を孕んで惡いと云ふ道理は無けど跡の始末は兎に角搗き直樣其の場の稼業の方に影響くから成る事ならば孕まぬ樣に爲るが好し併し何うにもならぬ場合は據るなければ然うした時には成る可く甘そうな客を見付け引き取らせる樣にすべし朝鮮の犬ちやアあるまいし無恰好な札が首つ玉に下つてる譯はないからねは江口の里で西行法師が夕立の雨宿りをさせて貰つた遊君に其のお禮として書いて與へた虎の卷こを見へる所なれば斯の道に從事する一同堅く申合せて專ら其の方針にて勉强し以て明治四十三年に及びたるなり然るに此所大和町二丁目花二三亭の酌婦塞川まつ枝（こ）は不埒にも此の憲法を無視し今より八年以前水原在住淫賣業中據ろなき場合に遭遇したと見へ懷妊し月滿ちて家鴨の卵の如く女の兒を生み落したるさへ少々不都合なるに夫れが誰れの胤やら見當が付かず彼れか是れかと諸方へ擔ぎ回つたるも引き受け手のなきに親父のない子供一匹を背負ひ込みしが稼業が稼業自分の手で養育する事が出來さるより家鴨の卵の如く子丈けに姑未もよく水原枝洞居住新聞配達人田邊長三と云ふに一人前の人間に淫化して貰ふ事にし爾來一ケ月何程つゝか養育料を支拂ひ既に本年小學校へ入學せしむる迄になりたるより流石に腹を痛めたる兒のことなれば情からうる筈なく夫れを樂みに盛んに娼妓を勵み居りしも今日此の頃同地の不景氣一方ならざるにぞ一二ケ月前前記花二三亭を放棄し、



女振り

巴松城館　本春　内江若女

春江子は館主卯吉君の長男民治君の配偶で本姓は柳田と云ひ廣島縣吳市の出生である、明治二十二年の出生で本年は二十二歳、勝子さんと云ふ四歳になる子さんがある、五年前當地柳翠樓から藤子と名乘りを上げて半玉として披露目をしたのだが間もなく民治君に見染められ、卯吉君の鑑識にも適ふて巴城館の一粒種の花嫁御寮となつたのである、民治君過日の青木堂主催の素人演劇に賴まれ當ての名古屋山三に扮して長田君の不破と俱に……右に富士山嶺北には筑波、思ひ比べん伊達―小袖……と謳都の士女を編笠越しに睨み倒した而して其出來が非常に好かつた相だが夫れは春江さんの內助の功に俟つ所多かりしことと察せらるゝ、敢て春江君には限らぬが萬人に善く云はれるも云ふ人は稀だ、一方に褒める人があれば一方に貶す人があるのは自然の數である、併し春江さん程極端に此の兩者を有するものは少ない、或る人は親切で萬事に行き屆く實に傑い年は若いが感心なものだ、一度彼家に宿泊たら他へは行けんと云ふ、然うか思ふと或る人は彼女の樣に不親切な火の見櫓の消防夫ちやないが人を眼下に見下す奴はない宿屋の鳴ア根性が猛然に發達したものだと罵る、仔細ぞあらんと探りて見ると褒める人は其茶代を澤心當いた方で、貶す人は心附けを倹約した方である、と判つて見ると貶す方が贔屓で、春江さんは此帳面は嫌ひで現金主義と云ふのだ、れ母さんは奥市に、姉のれ由さんは同居して勝子さんのお守なりを爲て御座る。

農銀行員と酌婦

▽男は春川農工銀行員

▽元仲の新地常盤樓酌婦

七日本欄「說盜五件」中に記したる長崎縣生れ杉本かつ（ま）と云ふは未だ屑揚げも取れぬ時分より既に男の味を覺へ近所の誰れ彼れと乳繰り合ひたる事一度や二度ならざりしが十五歲時遂に京城に來り本町七丁目の常盤樓に酌婦として住み込み上は大工左官より下に借軍苦力に至る迄數手嫌はず娼實に出如何なる一種卑近なる處世訓として範を文字外に索められんことを、と少々辛い手前味噌を打ち撒けること爾り。

同情

一臂の力を假さんことを言明したるのみか某氏に托して**筋書**せしめたり津城は此れを携へ壽座を說きて上場すべく契約し**壽座**より南部署に願出で興行の許可を得たるに開場の前夜に至りて突然其の**指令を取り消**

梁灣鹽田工事

意の境遇に居るを說き進んで同地の有望なるを極言し或る種の條件を提出したり（續）

酌婦として子を育つ

▽花二三亭まつ枝が事

女郎酌婦と雖ども女である以上は兒を孕んで惡いと云ふ道理は無けど跡の始末は兎に角搗き直樣其の場の稼業の方に影響くから成る事ならば孕まぬ樣に爲るが好し併し何うにもならぬ場合は據るなければ然うした時には成る可く甘そうな客を見付け引き取らせる樣にすべし朝鮮の犬ちやアあるまいし無恰好な札が首つ玉に下つてる譯はないからねは江口の里で西行法師が夕立の雨宿りをさせて貰つた遊君に其のお禮として書いて與へた虎の卷こを見へる所なれば斯の道に從事する一同堅く申合せて專ら其の方針にて勉强し以て明治四十三年に及びたるなり然るに此所大和町二丁目花二三亭の酌婦塞川まつ枝（こ）は不埒にも此の憲法を無視し今より八年以前水原在住淫賣業中據ろなき場合に遭遇したと見へ懷妊し月滿ちて家鴨の卵の如く女の兒を生み落したるさへ少々不都合なるに夫れが誰れの胤やら見當が付かず彼れか是れかと諸方へ擔ぎ回つたるも引き受け手のなきに親父のない子供一匹を背負ひ込みしが稼業が稼業自分の手で養育する事が出來さるより家鴨の卵の如く子丈けに姑未もよく水原枝洞居住新聞配達人田邊長三と云ふに一人前の人間に淫化して貰ふ事にし爾來一ケ月何程つゝか養育料を支拂ひ既に本年小學校へ入學せしむる迄になりたるより流石に腹を痛めたる兒のことなれば情からうる筈なく夫れを樂みに盛んに娼妓を勵み居りしも今日此の頃同地の不景氣一方ならざるにぞ一二ケ月前前記花

農銀行員と酌婦

▽男は春川農工銀行員

▽元仲の新地常盤樓酌婦

七日本欄「說盜五件」中に記したる長崎縣生れ杉本かつ（ま）と云ふは未だ屑揚げも取れぬ時分より既に男の味を覺へ近所の誰れ彼れと乳繰り合ひたる事一度や二度ならざりしが十五歲時遂に京城に來り本町七丁目の常盤樓に酌婦として住み込み上は大工左官より下に借軍苦力に至る迄數手嫌はず娼實に出如何なる一種卑近なる處世訓として範を文字外に索められんことを、と少々辛い手前味噌を打ち撒けること爾り。

濡手で粟慾脱裏（一）

五日の本紙に「三人組の恐喝取財」と題したる記事（叡照）内容は所謂告訴者側の言分に、被告訴者側にも又言分あり、此の双互の言分を綜合すれば一部京城の裏面を窺ふに足るべし、被告訴者側即ち**川合**、**楠本**、**北島**等の言分を記さんに同人等外一人が打ち伴れて廿二日午前二時頃花園町の山崎喜一方を訪れ激越なる言語を放ちたるも、又川合が同人より十二圓七十八錢（六月十日拵約束手形）を受取りたるも、北島が同人より二十圓を受取りたるも川合楠本等が二百圓の出金を申込みたるも悉く事實なるも其の**事情**に至りては大に**異**るものあるのみならず本件の立役者たる津城大八を川合楠本の兩人が山崎に引き合はせたりと云ふに至りては全然相違ありと云ふ然らば如何にして津城が山崎と相識となりしかを有りのまゝに記さんに**津城**が人も知る西小門外刑事殺しの嫌疑者として外二人と共に十箇月余を牢舍に送り幸に無罪の宣告を受けて放免せられたるは昨年十二月二十一日なり、き超ゐて四十三年二月頃同人が大連在住中懇親を結び居たる某と南大門外にて邂逅したるに對し先般來受けたる災難及び拘留中悲慘なる一家の出來事（妻女の病氣）等を物語りし、某は大に同情を表し常に自分が出入りする川合貞助が俠氣に富むより此れに紹介したるに津城は大に**警察の無能野蠻**を嗚らし拘留中受けたる苦痛を列べ口を極めて其の不法を罵りたる末此

美術半襟帶締其他經類各種

京城明治町一丁目
電話一千四百〇九番

ふり德商店

廣告

一鴨綠江松材現木
長サ八尺五寸以上二間半
一尺五寸角以上二尺迄
右木材多數有致し居候に付
特別安價に賣却仕候間御望の
方は御來談被下度願上候
京城熱地町三丁目
建築業　柴田芝六
電話五百六十八番

表具部開業
襖額屏風天井壁張及表裝一切
並書畫の需用に應す
旭町三丁目三日月湯隣
柴田表具部
主任　網島久雄
眞光小太郎
電話（五六八）

代書業
京城裁判所前向
池田仁吾
民刑事件鑑定辯護
前檢事
辯護士　豐田法律事務所
京城鍾路裁判所向

齒科治療
本町六丁目
ドクトル　中村安子
（藪そば横町）電話一五八三

●伯爵大隈重信閣下　序文
●前駐日清國公使　李家駒閣下　題字
●子爵　清浦奎吾閣下　有効證明
●駐上海日本總領事　永瀧久吉閣下　著作發行
●京電氣治療法研究會　發明專賣

完全靈効
自用電氣療法新編　一冊
自宅電氣療治の手引　一冊
素人患者自宅療法
自用電氣治療器械　一揮六

●自用實驗療法新編
●八体の構造
●八体の生理
●電氣治療の作用
●電氣治療器械
●電氣治療法及通電法
●電氣治療病名各論
●通電法總論
●腦病の六章
●腦病の六章
●成り立ち
●腦病の六章
●神經衰弱の原因
●神經衰弱の生殖器
●神經衰弱の生殖器
●神經衰弱の生殖器
●胃腸病
●宮殿病
●全身虛弱
●慢性子
●中風
●痛風
●脚氣
●ヒステリー
●ヒステリー
●ヒステリー